

各地区での主なやりとり内容を紹介します！

平成29年度村政懇談会



6月28日から7月7日にかけて、東海村自治会連合会と村との共催による村政懇談会が、各コミュニティセンターで開催されました。村政懇談会では、山田村長から、今年度の村政運営の基本方針等について説明がされた後、各地区から事前に提出された質問や要望に対する回答、参加者による自由質問が行われました。

今回は、各地区で行われた懇談の内容（一部抜粋）後編をご紹介します。なお、詳細は村公式ホームページに掲載の議事録をご覧ください。

また、村政懇談会で出された質問やご意見、その後の対応についても、各コミュニティセンターへ掲示するほか、村公式ホームページにも順次掲載する予定です。併せてご覧ください。

■問い合わせ 自治推進課自治推進担当（☎282局1711 内線1461）

白方地区

期 日 ▼ 7月5日
場 所 ▼ 白方コミュニティセンター
参加者 ▼ 137人

自治会への加入促進について

白方区住民 ▼ 私は白方区で防災の仕事をしているが、要支援者の約半分が自治会に入っていない。要支援者のような高齢になると自治会を離れていってしまう。このままでは自治会員がどんどん少なくなる。何か自治会に入るメリットが必要なのではないかと思う。

村長 ▼ 自治会加入の誘導策としては、通常、ごみ集積所の設置に10世帯が必要なところを、自治会加入世帯については、5世帯で可能にするとの優遇措置をした。しかし、それだけでは厳しい。村商工会で実施したポイントサービスと連動させて、アパートに住む人たちなどにも自治会に入ることを考えてもらう時期だと思う。昔ながらのボランティア精神だけで若い人を取り込むのは難しい。若い人たちの気を引けるようなことを考えていきたい。

これからの教育について

真崎区住民 ▼ 基本方針の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げる「子育てに優しいまち」は非常によいテーマである。しかし、近い将来は人工知能（AI）に仕事を取られてしまうのではないかと心配している。村で教育を受けた子どもたちが、人工知能にも勝てるような教育にぜひ取り組んでいただきたい。

教育長 ▼ これからは将来が見通せない世の中になっていく。だからこそ、自分の目で確かめ、触れ、考え、多くの人と関わり、そのような環境で育った子どもたちは、しなやかな力が備わって折れない心が育っていくと思う。また、自然科学にも力を入れたいと考えている。フィールドワークをしながら自分で価値判断をして、自分で解決できるような子どもたちを育てていきたい。



中丸地区

期 日 ▼ 7月6日
場 所 ▼ 中丸コミュニティセンター
参加者 ▼ 120人

原子力事故の報告等の対応について

押延区住民 ▼ 広域避難計画の策定 について、厳しい意見もあると思うが実際に計画を策定し、少しずつ改善していくことが必要だと思ふ。また、原子力事故が起きてしまった場合は、原子力事業所がいかに速やかに国や自治体などに連絡するかが一番大切なことだと思ふ。しかし実際は報告が遅れることがある。その対応を村長をはじめとして指導してほしい。

村長 ▼ 私は茨城県の広域避難計画を策定する際の委員になつていた。その際、県に対して同じ様な意見を述べたことがある。原子力事業所は、事故が拡大しないように何とか抑え込もうとするので報告が遅れてしまうのだと思ふ。事故が起きてしまったときの報告を徹底するように、原子力事業所にはお願いしている。今後、県にも働きかけをしていきたいと思います。

「(仮称)歴史と未来の交流館」について

押延区住民 ▼ この施設は小中学生から大学生、大人までのさまざまな人が利用できる施設になるかと思ふ。ボランティアを活用するなど、多くの人が利用できるような施設にしてほしい。

教育長 ▼ そのような施設を作りたいと考えている。県立東海高等学校初代校長の藤田稔先生のお話では、「先人たちが培ってきた生活文化を保存して伝えていくことにより、現代人がエネルギーをもらえろ」ということである。そのようなことが実現できる交流館にしたいと思ふ。子どもたちだけでなく大人にも来館してもらおう。村の歴史と文化を学び、人と人との関わりがたくさんあるような場所にしてほしい。



舟石川・船場地区

期 日 ▼ 7月7日
場 所 ▼ 舟石川コミュニティセンター
参加者 ▼ 126人

信号機の設置について

舟石川一区住民 ▼ 駆け上がり動燃線沿いに信号機が無く、変則的な十字路になっている場所がある。自動車スピードを落とさずに入ってくるため、小学生や高齢者が危ないと思ふ場面を見る。この状況を何とかしていただきたい。毎年似たような質問をしている。事故があつてからではなく、事故が起きる前に対応すべきではないか。

村長 ▼ 信号機の設置や一時停止に関することは交通規制の話になる。通常は警察署員に来てもらい、現場で状況を説明する。村内では勝木田下の内線や五反田線にも信号機が設置されたが、予算的なこともあり、全て要望どおりとはいかなかった。ご指摘の場所は斜めで見づらく、信号機を設置するしかないと思ふ。毎年要望してもらいながら実現できなかったのは申し訳ない。もう少し時間をいただきたい。

舟石川近隣公園の駐車場について

舟石川一区住民 ▼ 舟石川近隣公園に遊びに来る親子がたくさんいる。しかし、駐車場が少ない。近場によい公園ができたと思ふが、住民には迷惑な面もある。軽自動車や大きい車ごとに駐車場を分けるなど、もう少し考える余地があると思ふ。公園の中の東側の植え込みなどを再整備して駐車場するなど、検討してみてはどうか。

建設農政部長 ▼ 当初、舟石川近隣公園の周囲500メートルの人たちが歩いて来られる形での計画をしたが、現状は自動車で来る人が多くなつてきている。駐車場を増やすとなれば周りの土地の確保が必要になる。公園の中に駐車場を増やすことは遊具のスペースがなくなってしまうので、公園の周りに駐車場を確保するかどうかの検討になるかと思ふ。再整備の意見としていただいで、検討していきたい。